

針葉樹家具・建具・内装材の可能性を探る

上川地域水平連携協議会 事務局
社団法人北海道林産技術普及協会 事務局長 上島 信彦

1 はじめに

人工林資源の成熟化に伴い、道内でもトドマツ・カラマツ・スギを主体とする人工林資源活用の必要性が言われています。特に、中大径材の増加と、それに伴う品質の安定化に伴い、これまでの梱包材や下地材などの比較的付加価値の低い用途から、内装材・構造材・家具・建具等の比較的付加価値の高い用途での商品化が必要です。

上川地域水平連携協議会は、地場産トドマツ中大径材の活用をテーマに、製材工場、加工工場（集成材、プレカット、家具）、建設事業者等をメンバーとして、平成21年度から活動を行っています。

昨年度、トドマツ無垢構造材「夢来（むく）」を商品化し、今年度は家具・建具・内装材の可能性について検討をしていますが、事業の一環として、本州の針葉樹家具等の商品化の取り組みを調査してきましたので、報告します。

2 調査概要

平成24年2月21～24日に、本州で針葉樹を活用して家具等の生産・販売を行っている事業者を訪問し、意見交換や生産現場、商品を見てきました。

調査隊メンバーと調査対象事業者と対応していただいた方は、以下の通りです。

（調査隊メンバー）

（株）いさみや関口社長（旭川市）／（株）カワムラ岡野常務（旭川市）／（株）斉藤工業所齊藤専務（旭川市）／（株）山田木工場山田社長（旭川市）／三津橋農産（株）三津橋専務（下川町）／（社）北海道林産技術普及協会上島事務局長（旭川市）／特別参加：（株）ヨシダ吉田社長（苫小牧市）／松原産業（株）松原氏（栗山町）

（調査対象事業者）

（協）ウッドワーク関原顧問（新潟県）／飛驒産業（株）岡田社長・本母専務（岐阜県）／（株）木曾アルテック社齊藤社長（長野県）／森世紀工房有賀氏（有賀建具店、長野県）／（株）ベル研究所小田原社長（神奈川県）／コクヨファニチャー（株）加賀谷氏・坂部氏（東京都）

3 各社の取り組み

（協）ウッドワークは、地元の建具製造事業者5社からなる協同組合で、15年ほど前から、地場産スギを活用した家具生産を行っています。建具職人は針葉樹の取り扱いに慣れており、組子（くみこ、障子の格子棧を細く高度にしていたもの）の技術を活用した、繊細なデザインが特徴です。

使用者に直接販売する形態の商売をはじめること、地場産スギ間伐材の有効活用等を目的として活動していますが、商品力3大要素（デザイン、品質、価格）に地場産材活用の思想性を重視した事業展開を行っており、産地エゴや地縛産業に陥らないような取り組みをしています。



地場産スギで商品力と思想性のある商品
（ウッドワーク）



圧密加工で木材利用の可能性が広がる
（飛驒産業）

飛驒産業（株）は、国内有数の家具メーカーですが、柔らかい国産スギを広葉樹レベルの強度に上げて使うため、圧密加工（木材をプレスで圧縮し、密度や硬度を上げる加工。例えば30mm厚の板を15mm厚まで圧縮し、フローリングにするなど）を行って

まず、圧密加工には創業時からの得意技術「曲げ木」の技術が生かされており、圧密木材は、フローリングや家具などに加工しています。

圧密すると堅くなるだけと考えがちですが、温度条件等を変えることで、アコーディオン状に曲がる板などもでき、木材の可能性を認識させます。また、木口面の吸放湿性能を生かした「呼吸する壁」など、スギの特徴を生かした商品開発を進めています。

(株)木曾アルテック社は、地場産アカマツを中心に、地元の木地師や漆職人が連携して、フローリング等の内装材や風呂桶・家具類など、多彩な事業展開を行っています。

デザインの重視と、漆塗りの技術力をフル活用して、高付加価値商品を展開しています。漆塗り職人による繊細な着色は非常に美しく、資材を見ただけで使用のイメージが膨らみます。



地場産アカマツなどをデザインと漆塗りで高付加価値化（木曾アルテック社）



地場産カラマツで楽しい家具（森世紀工房）

森世紀工房は、地元の建具製造事業者5社からなる団体で、地場産カラマツを活用した家具生産を行っています。

木材自体に良し悪しは無く、楽しんで使うことを基本に、多様な商品づくりを行っています。工場には、カラマツ以外にもさまざまな広葉樹・針葉樹が並んでおり、中には「タラノキ」などもありました。木の楽しさを改めて教えられました。

(株)ベル研究所は、木材の流通デザイン、商品デザインなどを行っており、(協)ウッドワーク、森世紀工

房を含め、全国各地の針葉樹家具等の生産の取り組みについての指導・助言を行っています。また、首都圏などで針葉樹家具の展示会等を企画し、一体的なPRを行っています。地域材活用の構想は壮大で、夢が膨らみます。

コクヨファニチャー(株)は、文具用品のコクヨのグループ会社で、オフィス家具の生産を行っています。オフィス全体の環境対策をコンセプトに商品化を進めており、その一つとして国産材を活用したオフィス家具の生産を行っています。

また、スチールとの組み合わせによる低価格化、JIS規格よりも厳しい独自基準による品質管理なども特徴です。デザイン的にも洗練された製品が増えています。



オフィスの環境対策の一つとしての針葉樹家具（コクヨファニチャー）

4 現地調査を終えて

北海道は、特に旭川地方を中心として全国的にも家具生産が盛んな地域の一つですが、そのほとんどは広葉樹を原料としており、地場産針葉樹を活用した取り組みはほとんど無いのが現状です。

しかし、スギ等の針葉樹を使った家具生産は全国のあちこちで取り組まれており、いずれもまだまだ改善は必要であるものの、ノウハウは確実に蓄積され、市場も確実に広がっています。

道内の家具メーカーにおいても、優良な広葉樹資源の減少に直面し、樹種や節などにこだわっている場合ではないとの認識も出てきているように見受けられます。

北海道の家具メーカーの技術力・デザイン力・商品開発力に、林産試験場が開発した針葉樹の加工技術等を組み合わせれば、北海道においても、全国の先進事例に負けない針葉樹家具等が商品化できるものと思われまます。

上川地域水平連携協議会では、関連団体・事業者と協力しながら、地場産トドマツを活用した家具等の商品化を目指して、検討を続けて参りたいと思います。